

平成 26 年度 第 7 回理事会 議事録

1. 日 時 : 平成 27 年 3 月 28 日(土) 13:00~15:00
2. 場 所 : 弘前大学医学部附属病院 2F 検査部 カンファレンス室
弘前市本町 53 Tel. 0172-33-5111
3. 出席者 : 小島 佳也、川村 多蔵、齋藤 浩治、藤田 絵理子、増田 望、
三上 ルリ子、斉藤 仁、佐藤 めぐみ、木津 綾乃、奈良 秀則、
久保 忠利、野坂 亨治、吉岡 治彦、安田 善一、須藤 章裕 (木下理事代理)
4. 欠席者 : 秋元 広之、木下 純一、阿部 浩

定款第 5 章第 32 条及び諸規定により、議長に小島会長があたり、書記に佐藤、木津理事が指名され、審議が行われた。

【報告事項】

1) 第 6 回理事会議事録報告

資料として配布された『第 6 回理事会議事録』に従って小島会長より報告があり、議事録内容の了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承した。

2) 学術部経過報告

小島会長より以下の通り報告があった。

- ・平成 27 年 1 月 24、25 日「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」をラプラス青い森で開催した。修了者は 39 名だった。次年度も開催予定であるため、参加者を各施設で出してほしい。時期については未定である。
- ・3 月 14 日に生物化学部門研修会をアスパムで開催した。修了者は 29 名である。補助金の申請が 3 月 10 日で締め切りであったため、今回は補助金がもらえなかった。学術はなるべくはやく開催してもらいたい。
- ・6 月の学会の進捗状況であるが、教育講演、特別講演の内容が決まっている。また、会場でダンボールベッドを展示したいという申し出があった。一般演題は 3 月 26 日現在 6 題集まっている。4 月 15 日まで延長する予定である。ランチョンセミナーは協賛メーカーへ案内を出して募集中である。ランチョンセミナーは昨年まで 5 万円の賛助金を頂いていたが、平成 27 年度から昼食代を持ってもらうことが条件である。お弁当、お茶代を含めて 1300 円くらいである。それを 150 人程度として約 20 万円分をメーカーに負担してもらおう。今回の案で問題がなければ次回開催もこの形式を保つ予定である。

3) 公益部経過報告

川村公益部長より以下のように報告があった。

- ・高校生心電図の実施は4月8日から5月21日までの予定である。例年通り各支部の事務局長に割り振りを任せた。大変な作業であるが青臨技の収益になるため協力をお願いしたい。
- ・自宅技師には保険をかけるので、通知してほしい。
- ・ピンクリボンプロジェクトの事業に関して、前回理事会で今後の方針が話題になったが、継続して進めていく方向で考えている。
- ・小島会長より次のように補足があった。ピンクリボンプロジェクトは今年度より、日臨技からの助成がなくなったためにFM青森の協賛もやめたが、予算の都合で開催を取りやめることは避けたいので、次年度は例年通り開催したい。青森市民病院に事務局があるため話し合いの場を持ちたいと考えている。会計も同様にして進めたい。
- ・今後の体制について、以前は佐藤公益部長が公益部長と支部長を兼務していたため、支部に任せきりであった。今回支部長が野坂理事に変わったが以前の体制を引き継ぎ、野坂理事にすべてを任せていたために一部混乱が生じた。ピンクリボンプロジェクトは県としての事業であるため、今後は公益部長を責任者に置き、支部長を実務担当とする。

4) 渉外部経過報告

齋藤渉外部長より以下のように報告があった。

- ・県内での検査技師の確保が難しいと前回理事会でも話題になったため、青森県にイベント等で臨床検査技師を宣伝できないかを相談に行った。県としては、検査技師のみの宣伝は少し難しいとの回答だった。高校に直接行き、職業懇話会などで宣伝した方が良いということでもとまった。
- ・小島会長より、青臨技から高校に直接文書を出す了解が得られたことが今回の成果である、また11月の健康展で高校生などを対象に臨床検査技師の啓蒙活動を行う計画を立てていると補足があった。

5) 事務局経過報告

藤田事務局長より以下のように報告があった。

- ・今後の予定では、10月17、18日に北日本支部医学検査学会が札幌市で開催され、青森県担当部門は一般検査部門と総合管理部門である。5月16、17日に第64回日本医学検査学会が福岡市で行われる。座長は青森県から3名が決定している。生理部門は弘前大学医学部附属病院の一戸香都江氏、臨床化学部門は河村義雄氏、一般検査部門は平内中央病院の坂牛省二氏である。演題は4題エントリーしている。6月20日に医師・臨床検査技師卒後教育研修会が五所川原市で行われる。

6) 高校生ガイダンスについて

公益部経過報告にて述べたため省略とする。

7) その他

小島会長より以下のように報告があった。

- ・検体採取のポスターが日臨技から 600 部程度届いた。各施設に配布する予定である。
- ・安田理事より検体採取の講習会は厚生局があるところでしかやっていないため、青森県ではやってないのかと質問があり、小島会長より青森県など厚生局がないところでは開催していないため、地域によって不公平が生じていると日臨技に要望を送っていると回答があった。
- ・川村理事より 1 月 21、22 日に第 1 回の講習会が仙台市で行われ、青森県から数名の参加者が出ている。数ヶ月に一度程度の開催は今後も予定されていると補足があった。

【議題】

1) 定時総会の運営について

小島会長より以下の通り説明があった。

- ・次期理事会で各支部に役割を振る予定である。
事業計画案について藤田事務局長より以下のように説明があった。
- ・昨年度からの変更点は、会務において平成 27 年度定時総会は平成 27 年 6 月 20 日にホテルサンルート五所川原で行う。
- ・事業において、健康展の開催：協力検査と健康展の開催および弘前市市民の健康まつり、八戸市健康まつり、黒石市健康づくり市民の集いに協力する。
- ・学会及び学術的な研修会の開催、精度管理調査、検査値標準化の推進に関することにおいて、第 42 回青森県医学検査学会を平成 27 年 6 月 21 日にホテルサンルート五所川原で行う。以下に内容を示す。
 - ①一般演題：20 題(予定)
 - ②教育講演：『輸血管理業務は、毎日が医療安全推進日！』
講師：市立函館病院輸血細胞治療センター 佐々木淳技師
 - ③特別講演：『新潟・岩手・イタリアでのエコノミークラス症候群予防検診からわかってきた DVT と心血管リスク』
講師：新潟大学医歯学総合研究科生体機能調節医学専攻器官制御医学 榛沢和彦先生
 - ④ランチョンセミナー（メーカー募集中）
- ・臨床検査精度管理指導講習会の実施において、平成 27 年 6 月 20 日にホテルサンルート五所川原で行い、精度管理調査結果の集計・解析結果を報告し、問題点、改善点などを

検討する。

- ・ 関連団体との連携交流及び協力に関すること、弘前大学保健学研究科検査技術学専攻との卒前・卒後教育の連携において、医学部保健学科より正式な依頼文書が出された。施設提供、学生との交流の場を持つなど学校との連携を深めるためにも締結したい。文言などを修正後、正式な文書を保健学科に提出する予定である。

小島会長より以下のように追加説明があった。

- ・ 会誌、会報について、印刷代が会誌は1回10万円程度かかっている。予算削減の意味でホームページ等を活用したいと考えているため、発行回数については今後の検討課題としたい。

上記の事項について理事に諮ったところ了承された。

2) 第42回青森県医学検査学会について

須藤代理より以下のように説明があった。

- ・ 会場はホテルサンルート五所川原で6月20日(土)12:00~20:00において理事会、青臨技精度管理講習会、医師会医師検査技師卒後教育研修会、定時総会、情報交換会を行う。タイムスケジュールは12:00~12:45 県理事会、12:30~13:00 青臨技精度管理講習会受付、13:00~14:45 青臨技精度管理講習会(8部門 発表10分、質疑2分)、15:00~15:30 青森県医師会医師検査技師卒後教育研修会、15:30~16:30 青森県医師会医師検査技師卒後教育研修会・講演会、17:00~17:50 定時総会、18:00~20:00 情報交換会の予定である。
- ・ 6月21日8:00~16:00において第42回青森県医学検査学会を行う。タイムスケジュールは8:30~受付開始、8:50~9:00 開会式、9:00~11:45 一般演題、12:00~13:00 ランチセミナー(開催メーカー未定)、13:10~14:10 教育講演、14:10~15:10 特別講演、15:10~閉会式の予定である。教育講演は「輸血管理業務は、毎日が医療安全推進日!」と題し市立函館病院輸血細胞治療センターの佐々木淳先生に講演していただく予定である。特別講演は「新潟・岩手・イタリアでのエコノミークラス症候群予防検診からわかってきたDVTと心血管リスク」と題し新潟大学医歯学総合研究所生体機能調節医学専攻器官制御医学の榛沢和彦先生に講演していただく予定である。
- ・ 安田理事よりホテルサンルートの駐車場は狭いが大丈夫かと質問があり、齋藤理事、藤田事務局長よりつがる総合病院からほど近いので、その駐車場を利用してはどうかと意見があった。
- ・ 齋藤理事より医師検査技師卒後教育研修会の講師は決まっているかと質問があり、小島会長より未定であると回答があった。
- ・ 奈良理事より会場周辺のホテルや会場へのアクセス方法などを通知する必要があるのではないかと意見があり、小島会長、藤田事務局長よりホームページなどを活用してはどうかと提案があった。

上記の事項について理事に諮ったところ了承された。

3) 次年度予算について

増田理事より以下の通り説明があった。

- ・平成 26 年度の収支計算書は 3 月いっぱいまでであるため、概算になっている。
- ・収支の部の学会及び学術的な研修会の開催、精度管理調査、検査値標準化の推進に関することの印刷製本費が会誌・会報発行に伴い変更となる。現段階では概算であるため総会時に決定する。
- ・管理費の賃借料が事務所家賃を入れていなかったため変更となる。
- ・事業費の旅費交通費は健康展が弘前で行われることをふまえ、30 万の増額となっている。
- ・租税公課は前年度予算 60 万に対して決算 30 万程度だったため、今年度予算を 40 万に減額した。
- ・管理費における消耗品什器備品費は青臨技のパソコンが老朽化しているため、買換えのために 20 万増とした。
- ・支出合計は前年度より繰越額が若干多くなる。
- ・小島会長より、旅費交通費について、北日本学会が今年は札幌、全国学会が福岡であるため、去年よりも旅費が必要であることを見込み 5 万増となっていると追加説明があった。
- ・久保理事より予算はどこかに届け出る必要があるのかと質問があり、齋藤理事より、公益法人の移行に関する書類として県に提出する必要があると回答があった。
- ・久保理事より、関連団体との連携交流及び協力に関することの諸会費は実質 0 でよく、管理費の印刷製本費は 30 万だが 15 万程度で良いのではないかと、繰越額が年々増えているためもっと使ってもいいのではないかと、それを踏まえてもう少し支部の活動費にあててもらいたいと提案があった。小島会長より繰越金は会誌、精度管理報告書の印刷代は収支に含んでおらず、さらに 60 万程度の支出となるため実際の繰越額は前年度とほぼ同じになると説明があった。
- ・久保理事より、学術の印刷製本費は 100 万では足りないのではと質問があり、小島会長より予算を 120 万にすると回答があった。

上記の事項について理事に諮ったところ了承された。

4) 三八支部提案について

久保理事より以下のように提案があった。

- ・各会員が意見を出す場がない。
- ・支部長決済で支部独自の自由に使える予算枠を追加して欲しい。支部研修会でも講師を呼びたいが予算がない。また会員との交流や親睦は会員確保という視点から重要であり、レクリエーション費を予算に組み込んでほしい、忘年会の会費負担を軽減して欲しいな

どの意見が出されている。レクリエーション費は具体的に忘年会の会費補助や景品、場所代、お茶代、賞品などにあてることを見込んでいる。

- ・小島会長より次のように回答があった。会員の声は大事なので、各支部長にまず意見を出してもらい理事会で話してもらいたい。また支部長ではなく事務局に直接意見を出してもらっても構わない。日臨技からの研修会補助金は県だけで申請していたが、日臨技の体制が変わり、1つの研修会につき5万円だったのが、2万円になり、参加費として1人500円で限度額5万円となった。申請は県・支部を合わせて20の研修会までとなっているため、予算をあげ申請をどんどんしてもらいたい。レクリエーション費については、飲食代に関わるものは個人負担、学術に関するものは技師会で出す方針にしたい。ただし支部単位での歓迎会、送別会での主賓、また研修会での講師の参加費、それに関わる諸費用は別会計にして会議費として支出できると見込んでいる。景品代は参加費として個人負担としたい。
- ・安田理事より、互助会をつくり忘年会などにあてているが、青臨技とは別団体であり問題ないため、そういった部分も参考にしてほしいと意見があった。
- ・齋藤理事より、支部の会計を県と一緒にしたのは、法人移行に関係して必要なことであった。以前は不透明だった支部の会計を調査したところ、一部で不適切と思われる使い方が見受けられた。このことから使い方を見直したが、学術活動を制限しているわけではないと補足があった。
- ・小島会長より次のように追加説明があった。青森県の技師会年会費は8,000円と全国的に見ても高額であるために、年会費の減額をしたいと考えている。各学術部門長からも減額に賛成で、研修会の内容を濃くして会費を上げるより、減額して新人が技師会に入ってくれる方が支部としてもうれしいという意見があった。
- ・須藤代理より、県学会後の情報交換会においても補助が出ないため、参加者に楽しんでもらうため、ひいては県のために尽力しているのに支部にただ負担だけが残るような気がする。県学会は支部とは別に考え何らかの形で予算をつけ、県からのバックアップが少しでもあると主催する支部としても気が楽になると意見があった。小島会長より今後の検討課題としたいと回答があった。
- ・小島会長より、予算削減に関して次のように説明があった。各学術部門長と話し合っ決めていくことだが、現在部門毎の上限を設けておらず、実務委員の費用、講師代にも差があるため上限額を決めて研修会を企画してもらおうと考えている。学術部門長、副部門長、精度管理委員には県から1人5千円を支給しているが、平成27年度は一旦廃止する。

上記の事項について理事に諮ったところ了承された。

5) その他

- ・資料として配布された『月別会員数、会員移動状況』に従って小島会長より報告があり、

内容の了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承した。

小島会長より以下のように説明があった。

- ・日本臨床検査自動化学会春季セミナーをホテルニューキャッスル（弘前）で行う。後援を青森県臨床検査技師会にしたい。セミナーにも是非参加していただきたい。
上記の事項について理事に諮ったところ了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

会 長 印

監 事 印

印